



Style of — 私たちの家づくり — DEZAO

家づくりに関する
最新情報をチェック!

The Latest News

後

悔しない住宅ローン選びを!

国土交通省によると、現在、日本の住宅ローンの貸し出し残高は約880万件(2019年11月17日現在)。6世帯に1世帯は住宅ローンを返済している計算になります。家づくりを考えるときにはほとんどの人が利用する住宅ローンですが、MFSの調査によると、住宅ローンを借りた経験のある人の2.5人に1人が「**住宅ローン選びで後悔している**」と回答しているようです。

アンケートは住宅ローンを借りた経験のある30歳以上の男女360名を対象に実施されたもの。このアンケート結果によると、住宅ローン選びで後悔している人は半数近くの40.8%にのぼります。さらに年代別では30代が最も後悔している人が多い結果となり、60代以上が最も後悔していないという結果になりました。後悔している理由として最も多かったのが、「もっと金利の低い金融機関を選べば良かった」が31.7%、次いで「違う金利タイプを選べば良かった」が20.3%という結果に。**金融機関の選び方や、返済プランの立て方**が問題となることが多いようです。

住宅ローンの金利タイプには、借入期間中の金利がずっと一律の「**全期間固定金利型**」、借入当初から一定期間中の金利が固定される「**固定金利選択型**」、一定期間ごとに金利が見直される「**変動金利型**」の3タイプがあります。大切なのは、自分の**ライフプランにあった金利タイプや返済期間**を選ぶこと。ご家庭によって最適な住宅ローンは異なってきます。ご不明なことや不安な点がある場合は、ぜひお気軽に、弊社の営業担当までご相談ください。

～災害につよい家と暮らし方～

地球温暖化の影響でしょうか、自然災害が多発する昨今です。住宅にも防災対策が必要とされています。太陽光発電や給湯器、蓄電システムなどはその代表的なものでしょう。例えば太陽光発電には自立運転機能が具備されています。停電時には、日射に応じ専用コンセントから1.5kWから3kWまでの電気製品やコンセントを使用できます。太陽光発電で昼間に発電した電力を蓄電池に貯めて夜間に使うことができれば、停電が長引いた場合でも安心でしょう。電気自動車を所有されていれば、V2H (Vehicle to Home) システムの導入で、電気自動車が蓄電池の代わりとなります。

北野展示場 つなぐモデルハウス「とこしえ」では、V2HとHEMSを連携させており、実際に停電時の様子がわかる停電デモを体験していただけます。是非、ご体験ください。また、エコキュートやエネファームなど貯湯タンクを有する給湯器をご使用の場合は、断水時にタンク内の水を非常用水として利用することができます。

一方、いつもの暮らし方を見直すことで防災対策となることもあります。例えば、「分散収納」=分けて収納するという考え方です。例えば玄関以外の出入り口にも靴を一足置いておく。防災用品も靴の場合と同じように、それぞれ離れた2箇所に分散して収納するという考え方です。特に食料品などは平時から少し多めに買って置き、使った分を買い足すことを繰り返せば常に一定量が自然と備蓄できます。食品類はロフトや階段下の収納スペースなどにもストックし、定期的にキッチンへ移動させましょう。

快適ないつもの暮らしと、災害時のもしものときを切り離さない暮らし方のヒント。ぜひ実践してみてください。

住宅ローン金利タイプの

チェックポイント Check Point

それぞれのメリット・デメリットは?

住宅ローンは、各金融機関によって金利や審査基準が異なります。また、金利タイプはいくつかに分かれており、自分にあった最適な金利タイプを選ぶことが大切になります。

全期間固定金利型

借入当初から返済まで、金利が変動しない。毎月の返済額も固定になるので、安定した資金計画が実現しやすいが、変動金利と比べると金利が高めになる。

固定期間選択型

1年、3年、5年、10年など、金利の固定期間は自分にあったものを選ぶことができる。ただし、固定期間が終わった時点で金利が上昇し、返済負担が増えるリスクもある。

変動金利型

固定型に比べて金利が低いことがメリット。また、途中で固定期間選択型に切り替えることができるので、金利が上がりそうだと判断したら固定期間の長いタイプに変更することも可能ではあるが、金利が半年ごとに見直されるため、毎月の返済額も変動しやすくなる。